

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	岩本 明日香	備考
化学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 水曜日 1限目	1限目 9:00~10:30
【授業の到達目標】						
化学的基礎知識を学び、歯科衛生士が取り扱う歯科材料などの成分組成などについて理解を深める。						
【使用教科書・教材・参考書】				【実務経験等】		
最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 化学				歯科医師として大学病院等にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(歯科材料の成分組成などへの理解)習得への講義を行う。		
回	授業概要				授業概要	
1	【授業单元】 1章 物質とは何だろう(前) 周期表 電子配置図 【到達目標】			9	【授業单元】 【到達目標】	
2	【授業单元】 1章 物質とは何だろう(後) 物質量 【到達目標】			10	【授業单元】 【到達目標】	
3	【授業单元】 気体について知ろう 【到達目標】			11	【授業单元】 【到達目標】	
4	【授業单元】 3章 物質が水に溶けるとは 【到達目標】			12	【授業单元】 【到達目標】	
5	【授業单元】 4章 酸化とは、還元とは 【到達目標】			13	【授業单元】 【到達目標】	
6	【授業单元】 5章 化学反応 【到達目標】			14	【授業单元】 【到達目標】	
7	【授業单元】 6章 有機 【到達目標】			15	【授業单元】 【到達目標】	
8	【授業单元】 7章 ヒトをつくっているものは 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	基礎	履修学年	1年	担当教員	富重 君子	備考
情報リテラシー	科学的思考の基盤	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 月 曜日 1.2 限目	備考 2班分けて演習を主として進行する 1.2限目9:00～12:10
【授業の到達目標】 ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのパソコンのリテラシーを学習し、情報活用の基礎を身につける。さらに、歯科診療業務における資料作成・レポート作成などに必要な知識・操作を習得する。						
【使用教科書・教材・参考書】 情報リテラシー「Office2013」 実教出版				【実務経験等】 IT関係・情報通信系事業所に勤務・運営等の豊富な実務経験あり。その豊富な知識・経験等を活かし当授業の到達目標(歯科診療業務での必要な知識・操作能力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 ●Windows…基礎知識※資料(パソコンとは?他) ●Word…基礎知識 ①入力練習 ※資料(タッチタイピング・記号・単語・文章入力) 【到達目標】			9	【授業単元】 ④グラフと図形(応用) 【到達目標】	
2	【授業単元】 ②入力練習、文書の作成 ※ 資料(ビジネス文書の基礎、例題) 【到達目標】			10	【授業単元】 ⑤その他…WordとExcelの応用 【到達目標】	
3	【授業単元】 ③入力練習、表の作成 【到達目標】			11	【授業単元】 ●PowerPoint…基礎知識 【到達目標】	
4	【授業単元】 ④入力練習、文書(表)の編集 【到達目標】			12	【授業単元】 ①プレゼンテーション作成 【到達目標】	
5	【授業単元】 ⑤表現力をアップする 【到達目標】			13	【授業単元】 ②特殊効果の設定、効果的な表現方法について 【到達目標】	
6	【授業単元】 ●Excel…基礎知識 ①データの入力、編集 【到達目標】			14	【授業単元】 ●まとめ 前半 【到達目標】	
7	【授業単元】 ②表の作成、印刷 【到達目標】			15	【授業単元】 ●まとめ 後半 【到達目標】	
8	【授業単元】 ③いろいろな数式、グラフと図形 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	基礎	履修学年	1年	担当教員	河添 博幸	備考
心理学	人間と生活	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 火曜日 3限目	
【授業の到達目標】						
「心理学」の基礎と実践を学び、自分自身を知り、医療人として対象者とのコミュニケーションを図るための能力を習得する。						
【使用教科書・教材・参考書】				【実務経験等】		
はじめてふれる人間関係の心理学 (サイエンス社)				認定心理士として他法人の心理カウンセラーやNPO法人理事長等として多方面にわたる豊富な活動実績あり。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(医療人としてのコミュニケーション能力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 印象形成と対人認知 【到達目標】 印象形成のメカニズムと対人認知の枠組みを理解する			9	【授業単元】 友人関係 【到達目標】 友人選択と友人関係の葛藤を理解する	
2	【授業単元】 対人魅力 【到達目標】 対人魅力の諸要因を理解する			10	【授業単元】 恋愛関係 【到達目標】 恋愛のタイプと嫉妬を理解する	
3	【授業単元】 言語的コミュニケーション 【到達目標】 対人コミュニケーションのチャンネルを知る			11	【授業単元】 家族関係 【到達目標】 家族システム論から見た人間関係を理解する	
4	【授業単元】 非言語的コミュニケーション 【到達目標】 積極的にロールプレイに参加する			12	【授業単元】 態度変容と説得的コミュニケーション 【到達目標】 積極的にロールプレイに参加する	
5	【授業単元】 向社会的行動と攻撃行動 【到達目標】 向援助行動と攻撃性の原理を理解する			13	【授業単元】 リーダーシップ(1) 【到達目標】 リーダーシップのタイプと機能	
6	【授業単元】 自己概念と人間関係 【到達目標】 人格検査(質問紙法・投影法)			14	【授業単元】 リーダーシップ(2) 【到達目標】 PM理論と変革型リーダーシップを理解する	
7	【授業単元】 自己概念と人間関係 【到達目標】 自己不一致理論と自己認知の歪み			15	【授業単元】 集団心理と同調行動 【到達目標】 社会的促進と手抜き・集団の意思決定	
8	【授業単元】 日本的自己と人間関係 【到達目標】 日本的自己と他者の気持ちへの配慮			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	基礎	履修学年	1年	担当教員	吉岡 龍子	備考
歯科英語	人間と生活	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 木 曜 日 1 限 目	1限目 9:00~10:30
【授業の到達目標】 * 国際共通語としての英語運用性の重要性を理解し、意欲的な学習習慣を身につける。 * 基礎英会話能力の向上を目標とし、医療現場での応用につなげる。 * 英文法の基礎を理解しながら体感温度を高めていく。						
【使用教科書・教材・参考書】 English Missions ! Starter (Kinseido)				【実務経験等】 キャリア・コンサルタント、接遇インストラクター等として民間企業での豊富な実務経験あり。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(基礎英会話能力向上による医療現場での応用等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 The first day Orientation Self-introduction Pre- unit 【到達目標】			9	【授業単元】 Unit 6 可算名詞・不可算名詞 The Grand Canyon 【到達目標】	
2	【授業単元】 Unit 1 be 動詞 Welcome to Vancouver 【到達目標】			10	【授業単元】 Unit 7 一般動詞の過去形 T.O.- Toronto, Ontario 【到達目標】	
3	【授業単元】 Unit 2 一般動詞の現在形 Ryo Loves San Francisco 【到達目標】			11	【授業単元】 Unit 8 疑問詞 Big Texas 【到達目標】	
4	【授業単元】 Unit 3 代名詞 A British City in Canada ? 【到達目標】			12	【授業単元】 Unit 9 接続詞 Ottawa- The Capital 【到達目標】	
5	【授業単元】 Unit 4 進行形 L.A. Style 【到達目標】			13	【授業単元】 Review(復習) Unit 6~Unit 9 【到達目標】	
6	【授業単元】 Unit 5 時と場所を表す前置詞 The Canadian Rockies 【到達目標】			14	【授業単元】 症状や痛みに関する質問や表現 病歴や習慣に関する質問 レントゲン検査 【到達目標】	
7	【授業単元】 Review(復習) Unit 1~Unit 5 【到達目標】			15	【授業単元】 復習、試験対策 Unit 1~Unit 9 【到達目標】	
8	【授業単元】 デンタルクリニック電話対応 デンタルクリニック受付対応 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	基礎	履修学年	1年	担当教員	橋本 絵鯉子	備考
ビジネスマナー	人間と生活	履修時間 (単位)	60時間 [4]	開講区分	前後 期 火 曜日 2 限目	2限目 10:40~12:10
【授業の到達目標】 仕事はさまざまな人間関係の中で進められている。気持ちのよい人間関係を築き、それを持続することが仕事の成果へとつながっていく。本講では特に医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を、理論と実技を通して習得し、信頼される歯科衛生士を目指すものである。						
【使用教科書・教材・参考書】 ●実践ビジネスマナー/○「社会人のための基本マナー」(主婦の友社) ○「マナーブック」(梧桐書院)/○「プレゼンテーション技法」(株・ウイネット) ○「コミュニケーション技法」(株・ウイネット)/○「敬語の本」(KKロングセラーズ) ○「NHK新アナウンス読本」(日本放送協会編:日本放送出版協会)					【実務経験等】 アナウンサー、キャリアコンサルタント等としてテレビ・ラジオ等で豊富な活動実績あり。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(信頼される歯科衛生士像)習得への講義を行う。	
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 接遇・話法の必要性 【到達目標】 マナーの定義・挨拶の基本(お辞儀の仕方)ができる			9	【授業単元】 敬語の使い方 【到達目標】 言葉の工夫・接客用語(院内外の使い分け)ができる	
2	【授業単元】 身だしなみのマナー 【到達目標】 医療従事者に相応しい身だしなみ、姿勢・物の受け渡し・ドアの開閉マナーを知っている			10	【授業単元】 聞き方のマナー 【到達目標】 傾聴の仕方(患者やスタッフへの傾聴)を知っている	
3	【授業単元】 コミュニケーションを考える 【到達目標】 コミュニケーションの定義と技法を医療に活用できる			11	【授業単元】 聞き方のマナー 【到達目標】 質問のタイミングと留意点を説明できる	
4	【授業単元】 上手な話し方 【到達目標】 正しい発声・発音・表現力ができる			12	【授業単元】 指示の受け方 【到達目標】 指示・命令の受け方・確認の仕方を説明できる	
5	【授業単元】 上手な話し方 【到達目標】 正しく話す/言葉の選び方/わかりやすく話す ことができる			13	【授業単元】 報告・連絡・相談 【到達目標】 報告・連絡・相談の仕方を説明できる	
6	【授業単元】 上手な話し方 【到達目標】 印象良く話す(プレゼンテーション法)ことができる			14	【授業単元】 挨拶・自己紹介 【到達目標】 訪問先での挨拶・自己紹介(実技)ができる	
7	【授業単元】 敬語の使い方 【到達目標】 尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方を理解する			15	【授業単元】 電話応対 【到達目標】 電話のマナー/電話の受け方・取り次ぎ方を知っている	
8	【授業単元】 敬語の使い方 【到達目標】 誤りやすい敬語・二重敬語を理解する			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	江崎 影信	備考
解剖学	人体の構造と機能	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 火曜日	1限目 9:00~10:30
【授業の到達目標】						
人体の正常な形態、構造、発生を理解し、歯科医学との関連基礎知識を習得する。						
【使用教科書・教材・参考書】				【実務経験等】		
最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学				歯科医師として大学病院、民間医院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(人体の歯科医学の関連基礎知識)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 序章-① I編 組織と発生 ・1章細胞と組織 p13- 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 II編 構造と機能 ・1章 骨格系 p46- 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 II編 構造と機能 ・2章 筋と運動 p58- ①概説 ②体の各部位の筋系 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 II編 構造と機能 ・2章 筋と運動 p74- ③運動 ④筋電図 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 II編 構造と機能 ・3章 消化・吸収 p85- ①消化と吸収の意義- ②消化器の構造 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 II編 構造と機能 ・3章 消化・吸収 p98- ③口腔での消化・④胃の機能 ⑤小腸の機能・⑥大腸の機能 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 II編 構造と機能 ・4章 循環 p109- ①脈管系の概要~⑨リンパ系 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 II編 構造と機能 ・5章 神経系 p144- ①神経系の概要~③中枢神経系 ⑤神経系の構成~⑦神経系の主な伝導路 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	片岡 美紀	備考
生理学	人体の構造と機能	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 金曜日 1限目	1限目 9:00~10:30
【授業の到達目標】						
生命体の単位(細胞のつくりと働き)から始まり血液、循環、呼吸筋、神経、感覚、消化吸収、排泄、体温、内分泌、生殖の順に器官系の働きの理解を深める。						
【使用教科書・教材・参考書】				【実務経験等】		
最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学				歯科医師として民間医院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(生命体各器官の働きの理解)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 序章-② p7- I 編 組織と発生 ・1章細胞と組織 p13- 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 ・2章 発生 p32- 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 II 編 構造と機能 ・6章 呼吸 p171- 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 ・7章 感覚 p189- 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 ・8章 排泄 p206- 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 ・9章 体温 p218- 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 ・10章 内分泌 p227- 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 ・11章 生殖 p234- 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	藤森 優汰朗 / 添島 賢一	備考
口腔解剖学	歯・口腔機能の構造と機能	履修時間 (単位)	45時間 [3]	開講区分	前後 期 金 曜日 3 火 曜日 1 限目	3限目 13:00~14:30
【授業の到達目標】 顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を理解する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本 (医歯薬出版)第2版 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 歯科衛生士書き込み式学習ノート				【実務経験等】 歯科医師として大学病院にて、及び歯科医院にて診療業務に従事する講師2名により授業実施。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(口腔とその周囲組織の構造と機能の基本的知識)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 1章 歯の形態 ①はじめに 【到達目標】 ①~⑥			9	【授業単元】 3章 歯および歯周組織の構造と機能 ①エナメル質~⑧口腔粘膜 【到達目標】 ①~④	
2	【授業単元】 Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 1章 歯の形態 ②永久歯 【到達目標】 ①~⑥			10	【授業単元】 3章 歯および歯周組織の構造と機能 ①エナメル質~⑧口腔粘膜 【到達目標】 ①~④	
3	【授業単元】 Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 1章 歯の形態 ②永久歯 【到達目標】 ①~⑥			11	【授業単元】 3章 歯および歯周組織の構造と機能 ①エナメル質~⑧口腔粘膜 【到達目標】 ①~④	
4	【授業単元】 Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 1章 歯の形態 ②永久歯 【到達目標】 ①~⑥			12	【授業単元】 3章 歯および歯周組織の構造と機能 ①エナメル質~⑧口腔粘膜 【到達目標】 ①~④	
5	【授業単元】 Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 1章 歯の形態 ③乳歯 【到達目標】 ①~⑥			13	【授業単元】 Ⅰ編 顎・口腔の構造と機能 2章 口腔付近の解剖学 ①口腔とは ②口腔を構成する骨 【到達目標】 ①~④	
6	【授業単元】 Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 1章 歯の形態 ④特色のある歯の形態 ⑤咬合 【到達目標】 ①~⑥			14	【授業単元】 2章 口腔付近の解剖学 ②口腔を構成する骨 【到達目標】 ⑤~⑨	
7	【授業単元】 Ⅰ編 顎・口腔の構造と機能 1章 顔面と口腔の発生 【到達目標】 ①~⑦			15	【授業単元】 2章 口腔付近の解剖学 ②口腔を構成する骨 【到達目標】 ⑤~⑨	
8	【授業単元】 Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 2章 歯と歯周組織の発生 ①先行歯の発生~⑤歯の萌出の臨床的考察 【到達目標】 ①~④			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	澤幡 佳孝	備考
口腔生理学	歯・口腔機能の構造と機能	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 水曜日 1・2 限目	1限目 9:00~10:30 2限目 10:40~12:10
【授業の到達目標】 口腔の生理機能(咬合・咀嚼・嚥下・発声・味覚・嗅覚)を学び、幅広く求められる歯科衛生士の専門職としての技能に活用できるまでに理解を深める。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 口腔外科学・歯科麻酔学				【実務経験等】 歯科医師として2003年より歯科医院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(口腔の生理機能を学び専門職技能の活用)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業单元】 I 編 顎・口腔の構造と機能 第3章 歯と口腔の感覚 口腔生理学概論 【到達目標】 ①~⑦			9	【授業单元】 5章 咬合と咀嚼・吸啜 咬合③顎反射 【到達目標】 ①~⑦	
2	【授業单元】 歯と口腔感覚① 【到達目標】			10	【授業单元】 5章 咬合と咀嚼・吸啜 咬合④摂食行動 【到達目標】 ①~⑦	
3	【授業单元】 歯と口腔感覚② 【到達目標】			11	【授業单元】 5章 咬合と咀嚼・吸啜 咬合⑤咀嚼能力 ⑥吸啜 【到達目標】 ①~⑦	
4	【授業单元】 第4章 味覚と嗅覚 味覚① 【到達目標】 ①~⑩			12	【授業单元】 6章 嚥下と嘔吐 嚥下嘔吐① 【到達目標】	
5	【授業单元】 第4章 味覚と嗅覚 味覚② 【到達目標】 ①~⑩			13	【授業单元】 6章 嚥下と嘔吐 嚥下嘔吐② 【到達目標】	
6	【授業单元】 第4章 味覚と嗅覚 味覚③ 【到達目標】 ①~⑩			14	【授業单元】 7章 発声・8章 唾液 唾液① 【到達目標】	
7	【授業单元】 5章 咬合と咀嚼・吸啜 咬合①下顎位 【到達目標】 ①~⑦			15	【授業单元】 唾液②発声 試験対策授業 【到達目標】	
8	【授業单元】 5章 咬合と咀嚼・吸啜 咬合②下顎の運動 【到達目標】 ①~⑦			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	開 祐起	備考
口腔生化学	歯・口腔機能の構造と機能	履修時間 (単位)	20時間 [1]	開講区分	前 期 月 曜日 4 限目	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】						
口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラーク(歯垢)に着目し、その構成成分やそこで生じる現象を生化学的に理解する。またう蝕の機序に基づいた予防プランを立案する能力を持つ。						
【使用教科書・教材・参考書】				【実務経験等】		
最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 栄養と代謝 II 編歯と口の生化学				歯科医師として大学病院の歯科口腔外科の診療に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(科学的理解と予防プラン立案能力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 序章 栄養と代謝p1- I 編 生命活動の概要 1章 生体の構成要素 【到達目標】			9	【授業単元】 歯科衛生士として、う蝕の機序を説明できる能力を持つ 【到達目標】	
2	【授業単元】 2章 生体における化学反応 3章 糖質と脂質の代謝 【到達目標】			10	【授業単元】 歯科衛生士として、う蝕予防方法を選択できる 【到達目標】	
3	【授業単元】 4章 タンパク質とアミノ酸の代謝 5章 生体における恒常性の維持 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 II 編歯と口の生化学p50- I 章 歯と歯周組織の生化学 ①歯と歯周組織~③歯 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 2章 硬組織の生化学p65- ①血清中のカルシウムとリン酸~④歯の脱灰と再石灰化 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 3章 唾液の生化学 ①唾液の組成と機能p81- 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 4章 プラークの生化学 ①プラークの生物活性p90- ②プラークによるう蝕発症機構 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 ②プラークによるう蝕発症機構 ③プラークによる口臭発症機構 ④プラークによる歯周疾患発症機構 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	高宗 康隆	備考
一般病理学	疾病の成り立ちと回復の促進	履修時間 (単位)	15時間 [2]	開講区分	前期 水曜日	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 病気の原因、発症の機序、進展、および転帰を学び、疾病の予防に有用な知識を習得する						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学				【実務経験等】 歯科医師として2001年より大学病院、公立病院にて歯科口腔外科の診療業務に従事、その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(一般病理学の知識と予防)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 1章 病理学序論と病因論 【到達目標】 ①~⑤			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 2章 遺伝性疾患と奇形 【到達目標】 ①~④			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 3章 循環障害 【到達目標】 ①~⑩			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 4章 代謝障害と退行性病変 【到達目標】 ①~④			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 5章 増殖と修復 【到達目標】 ①~④			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 6章 炎症と免疫応答異常(前編) 【到達目標】 ①~⑧			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 7章 腫瘍 【到達目標】 ①~⑦			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 6章 炎症と免疫応答異常(後編) 【到達目標】 ①~⑧			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	高宗 康隆	備考
口腔病理学	疾病の成り立ちと回復の促進	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 水曜日	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 口腔分野における疾病の種類、その原因、発症の機序、進展・転帰を理解し、歯科衛生士として予防や治療助業務に活用する						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学				【実務経験等】 歯科医師として2001年より大学病院、公立病院にて歯科口腔外科の診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(口腔病理学の知識と予防等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 II編 口腔病理学 1章 歯の発育異常p70- 【到達目標】 ①~⑧			9	【授業単元】 9章 顎骨の病変(前編) 【到達目標】 ①~⑥	
2	【授業単元】 2章 歯の損傷と着色・付着物 【到達目標】 ①~④			10	【授業単元】 9章 顎骨の病変(後編) 【到達目標】 ①~⑦	
3	【授業単元】 3章 う蝕 【到達目標】 ①~④			11	【授業単元】 10章 唾液腺の病変 【到達目標】 ①~⑥	
4	【授業単元】 4章 象牙室・歯髄複合体の病態 【到達目標】 ①~⑦			12	【授業単元】 11章 口腔領域の奇形 【到達目標】 ①~③	
5	【授業単元】 5章 歯周組織の病態(前編) 【到達目標】 ①~⑧			13	【授業単元】 12章 口腔組織の加齢変化 【到達目標】 ①~⑤	
6	【授業単元】 5章 歯周組織の病態(後編) 【到達目標】 ①~⑧			14	【授業単元】 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 【到達目標】 ①~⑦	
7	【授業単元】 6章 口腔粘膜の病変(前編) 【到達目標】 ①~⑤			15	【授業単元】 8章 口腔癌 【到達目標】 ①~⑥	
8	【授業単元】 6章 口腔粘膜の病変(後編) 【到達目標】 ①~⑤			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	前田 仁志	備考
薬理学	疾病の成り立ちと回復の促進3	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 木 曜 日 2 限目	2限目 10:40~12:10
【授業の到達目標】 薬理学の基礎知識を学び、薬剤の取り扱いに関する基本と歯科の治療内容に関連する薬物との関係を理解する。また、他職種と連携する上で						
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士テキスト 最新薬理学(疾病の成り立ち及び回復過程の促進) (学建書院)				【実務経験等】 大学薬学部にて2016年より勤務実績あり。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(薬理学の知識・取り扱い・歯科治療内容との関係)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 総論:歯科臨床における薬理学・歯科薬理学の意義 【到達目標】 ①~③			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 III 歯科薬理学 1. 局所麻酔に用いる薬物 【到達目標】 ①			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 2. 止血・凝固に用いる薬物について 【到達目標】 ①②			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 2. 止血・凝固に用いる薬物について 【到達目標】 ①②			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 I 総論 5. 薬物の適用方法と体内動態 【到達目標】 ①~③			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 I 総論 5. 薬物の適用方法と体内動態 【到達目標】 ①~③			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 グループワーク 【到達目標】 ①~③			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	中村 響	備考
微生物学	疾病の成り立ちと回復の促進	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 金曜日 4限目	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 細菌、真菌、ウイルスなどの微生物、およびそれらによって引き起こされる歯科領域の疾患について学び、歯科衛生士としての知識を持つ。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学				【実務経験等】 歯科医師として大学病院等にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(微生物による歯科疾患の知識)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 1章 疾病と微生物 【到達目標】 ①~⑧			9	【授業単元】 6章化学療法 ①~⑦ 【到達目標】 ①~⑤	
2	【授業単元】 1章 疾病と微生物 【到達目標】 ①~⑧			10	【授業単元】 7章院内感染対策と滅菌・消毒 【到達目標】 ①~⑦	
3	【授業単元】 2章微生物の病原性 ①~⑥ 【到達目標】 ①~⑨			11	【授業単元】 総合まとめ(1) 【到達目標】	
4	【授業単元】 3章宿主防御機構と免疫 【到達目標】 ①~⑤			12	【授業単元】 総合まとめ(2) 【到達目標】	
5	【授業単元】 3章宿主防御機構と免疫 【到達目標】 ①~⑤			13	【授業単元】 演習(1) 【到達目標】	
6	【授業単元】 3章宿主防御機構と免疫 【到達目標】 ①~⑤			14	【授業単元】 演習(2) 【到達目標】	
7	【授業単元】 4章口腔微生物学 ①② 【到達目標】 ①~⑩			15	【授業単元】 演習(3) 【到達目標】	
8	【授業単元】 5章口腔感染症 ①~④ 【到達目標】 ①~④			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	宮本 美砂	備考
口腔衛生学	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	履修時間 (単位)	45時間 [3]	開講区分	前期 水曜日 3限目	3限目 13:00~14:30

【授業の到達目標】

口腔の健康について理解し、歯・口腔の疾病異常を予防し、口腔の健康を保持増進させることによって、全身の健康を保持増進できることを知識として習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本(医歯薬出版)
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1
保健生態学(第12刷)

【実務経験等】

歯科医師として1990年より歯科医院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(口腔と全身の健康保持増進知識)習得への講義を行う。

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】	9	【授業単元】 4章う蝕の予防 ③④ 【到達目標】 ①~⑦
2	【授業単元】 Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 1章総論① 【到達目標】 ①~⑩	10	【授業単元】 5章フッ化物によるう蝕の予防 ①-⑤ 【到達目標】 ①~⑥
3	【授業単元】 Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 1章総論② 【到達目標】 ①~⑩	11	【授業単元】 5章フッ化物によるう蝕の予防 ⑥⑦ 【到達目標】 ①~⑥
4	【授業単元】 Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 1章総論③ 【到達目標】 ①~⑩	12	【授業単元】 5章フッ化物によるう蝕の予防 ⑧⑨ 【到達目標】 ①~⑥
5	【授業単元】 2章口腔清掃 ①~③ 【到達目標】 ①~⑥	13	【授業単元】 6章歯周疾患の予防 ①~④ 【到達目標】 ①~⑧
6	【授業単元】 2章口腔清掃 ④⑤ 【到達目標】 ①~⑥	14	【授業単元】 7章その他の疾患・異常の予防 ①~⑦ 【到達目標】 ①~⑦
7	【授業単元】 3章歯科疾患の疫学 ①②③ 【到達目標】 ①~⑥	15	【授業単元】 8章ライフステージごとの口腔保健管理 ①~④ 【到達目標】 ①~⑥
8	【授業単元】 4章う蝕の予防 ①② 【到達目標】 ①~⑦		【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	緒方 秀則	備考
歯科衛生統計	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 金曜日	3限目 13:00~14:30
【授業の到達目標】 歯科保健医療に関する様々なデータや指数、数値を統計処理するときの基礎知識と具体的な処理方法を学ぶ。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学(3刷)				【実務経験等】 歯科医師として大学病院勤務を経て歯科医院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(歯科統計の基礎知識と処理方法)習得への講義を行う。		
回	授業概要		年	授業概要		
1	【授業単元】 1章 保健情報と保健統計 4章 保健情報の分析手順① 【到達目標】 1章:①~④ 4章:①		9	【授業単元】 【到達目標】		
2	【授業単元】 2章 保健情報と疫学 【到達目標】 ①~⑫		10	【授業単元】 【到達目標】		
3	【授業単元】 3章 歯科疾患の指数 (う蝕の指数) 【到達目標】 ①~④		11	【授業単元】 【到達目標】		
4	【授業単元】 3章 歯科疾患の指数 (歯周疾患の指数) 【到達目標】 ①~④		12	【授業単元】 【到達目標】		
5	【授業単元】 3章 歯科疾患の指数 (口腔清掃その他の指数) 【到達目標】 ①~④		13	【授業単元】 【到達目標】		
6	【授業単元】 4章 ②③ 5章 保健統計の方法 【到達目標】 4:②~⑤ 5:①~④		14	【授業単元】 【到達目標】		
7	【授業単元】 6章 保健情報の分析演習 【到達目標】 ①~⑥		15	【授業単元】 【到達目標】		
8	【授業単元】 7章 情報の保護と倫理 【到達目標】 ①~④		【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。			

科目名	専門基礎	履修学年	1年	担当教員	谷 昭子	備考
衛生・公衆衛生学	菌・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前 期 金 曜 日 2 限 目	2限目 10:40~12:10
【授業の到達目標】 人間の健康の問題とそれを取り巻くあらゆる環境因子との相互関係を追究し、衛生学・公衆衛生学的な考え方や知識を活用できるようにする。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 菌・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学(第3版) (参)国民衛生の動向((財)厚生統計協会)他				【実務経験等】 保健師として自治体(保健所等)にて長年公衆衛生等に関する豊富な勤務実績あり。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(衛生学・公衆衛生学知識)習得への講義を行う。		
回	授業概要			授業概要		
1	【授業単元】 I 編1章 総論 ①~③ 【到達目標】 ①~⑥			9	【授業単元】 I 編5章 感染症 (主な感染症の動向) 【到達目標】 ①~⑥	
2	【授業単元】 I 編2章 疫学 【到達目標】 ①~⑥			10	【授業単元】 I 編6章 食品と健康 (食品保健、食中毒の疫学・分類、栄養と健康) 【到達目標】 ①~⑤	
3	【授業単元】 I 編2章 疫学 (疫学の種類とその方法、演習) 【到達目標】 ①~⑥			11	【授業単元】 III 編1章 地域保健・公衆衛生 ①地域社会と地域保健の概念~③ 【到達目標】 ①~⑤	
4	【授業単元】 I 編3章 人口 (保健統計、人口統計) 【到達目標】 ①~⑥			12	【授業単元】 III 編1章 地域保健・公衆衛生 ④地域保健活動の進め方~⑤ 【到達目標】 ①~⑤	
5	【授業単元】 I 編3章 人口 (死亡に関する統計、健康と疾病をめぐる日本の現状) 【到達目標】 ①~⑥			13	【授業単元】 III 編8章 災害時の歯科保健 ①大規模災害時の保健医療対策~③ 【到達目標】 ①~⑥	
6	【授業単元】 I 編4章 健康と環境 【到達目標】 ①~⑥			14	【授業単元】 III 編9章 国際保健 ①開発途上国における健康問題~⑤ 【到達目標】 ①~⑤	
7	【授業単元】 I 編4章 健康と環境 (公害、廃棄物、地球環境) 【到達目標】 ①~⑥			15	【授業単元】 まとめ 【到達目標】	
8	【授業単元】 I 編5章 感染症 (感染症の概念、感染症成立の三要因、感染症の予防と対策) 【到達目標】 ①~⑥			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門基礎	履修学年	2年	担当教員	谷 昭子	備考
衛生行政・社会福祉	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前 期 金 曜 日 1 限 目	1限目 9:00～10:30
【授業の到達目標】 衛生行政の仕組みや保健医療、さらに福祉関係の法規について精通し、また、社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸対策についても理解を深める。						
【使用教科書・教材・参考書】 (医歯薬出版) 歯科衛生士のための 衛生行政・社会福祉・社会保険(医歯薬出版) 第9版				【実務経験等】 保健師として自治体(保健所等)にて長年公衆衛生等に関する豊富な勤務実績あり。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(衛生行政・社会福祉等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 1章 社会保障制度 I. わが国の社会保障制度 ～V. 世界の社会保障制度 【到達目標】 社会保障制度の体系を知り、社会保障制度の考え方や私たちの生活とのつながりについて理解する			9	【授業単元】 4章 保健医療の動向 III. 医療施設、IV医療関係者 V. 国民医療費 【到達目標】 同上	
2	【授業単元】 1章 社会保障制度 2章 衛生行政 【到達目標】 2章:行政制度の根幹である組織、関係者などについて理解をする			10	【授業単元】 5章 社会保険 I. 社会保険の沿革、II. 社会保険行政の組織 III. 医療保険制度と法 【到達目標】 疾病のときや労働者、高齢者、要介護者などの生活を保障する制度の仕組みと運用を理解する	
3	【授業単元】 2章 衛生行政 I. 衛生行政の目的 II. 衛生行政の沿革 【到達目標】 2章:行政制度の根幹である組織、関係者などについて理解をする			11	【授業単元】 5章 社会保険 IV. 年金保険の概要、V. 雇用保険・労働災害補償 VI. 介護保険制度 【到達目標】 同上	
4	【授業単元】 2章 衛生行政 III. 衛生行政の組織 3章 衛生関係法 I. 概論 【到達目標】 歯科衛生士法について熟知すると共に、法に基づいて業務ができるように関連する法律の内容を理解する			12	【授業単元】 6章 社会福祉 I. 沿革、II. 組織、III. 担い手 IV. 生活保護制度 【到達目標】 全国民に対する福祉サービスの進め方と個々のサービスの仕組みと運用について理解する	
5	【授業単元】 3章 衛生関係法 II. 医師法・歯科医師法 III. 歯科衛生士法 前半 【到達目標】 同上			13	【授業単元】 6章 社会福祉 V. 児童と家庭の福祉、VI. 障がい者福祉 VII. 高齢者福祉 【到達目標】 同上	
6	【授業単元】 3章 衛生関係法 V. 医療法まとめ、VI. 旧薬事法まとめ VII. 地域保健法・健康増進法・歯科口腔保健法 【到達目標】 同上			14	【授業単元】 7章 保健医療の実務 I. 仕組み、II. 実務 総復習 I 【到達目標】 医療保険制度のもとで行う歯科保健医療の実務について、医療事務も含め歯科衛生士が身に着ける実務の基本を理解する	
7	【授業単元】 4章 保健医療の動向 I. 厚生関係統計 II. 国民の健康状態と受療状況 【到達目標】 国民の健康状態や医療関係者の推移について、また統計調査資料の利用方法を理解する			15	【授業単元】 総まとめ 【到達目標】	
8	【授業単元】 4章 保健医療の動向 I. 厚生関係統計 II. 国民の健康状態と受療状況 【到達目標】 同上			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	3年	担当教員	専任教員	備考
歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	期 曜日 限目	
【授業の到達目標】 歯科衛生士は、国家資格免許を得て患者・国民に歯科保健医療を提供するという特別な職種であることを理解し、必要とされる資質についても熟知する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度(第3版) 歯科衛生学総論				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員2名により、当授業の到達目標(歯科衛生士の職務・資質等の理解)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 1章 歯科衛生学とは 2章 歯科衛生の歴史 【到達目標】 p1/8参照			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 3章 歯科衛生活動の理論 4章 歯科衛生過程 【到達目標】 p20/32参照			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 【到達目標】 p42参照			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 【到達目標】 p42参照 ※歯科衛生士業務(診療補助)に関する業務ガイドライン			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 6章 歯科衛生士と医療倫理 7章 歯科衛生士の活動と組織 【到達目標】 p66/77参照			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 8章 海外における歯科衛生士 付録1~4 【到達目標】 p93参照			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 国試対策まとめ 【到達目標】 歯科衛生士概論問題攻略			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 国試対策まとめ 【到達目標】 歯科衛生士概論問題攻略			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	菊池希/月足亜佐美/中山孝二	備考 特別授業 1限目 9:00~10:30
有病者看護論	歯科衛生士概論	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 火曜日 1限目	
【授業の到達目標】 有病者の歯科医療における内科を中心とする医療連携は必須であり、歯科衛生士は基礎疾患に対する基礎知識およびリスクを有する患者に対する対応法を学び連携する能力を養成する。						
【使用教科書・教材・参考書】 (医歯薬出版) 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション				【実務経験等】 長年にわたり医療法人に勤務する看護師3人により授業実施 その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(有病者への歯科・内科医療連携及び有リスク者への対応・連携能力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 他職種理解、医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ 【到達目標】			9	【授業単元】 地域医療における連携 【到達目標】	
2	【授業単元】 歯科衛生士が知っておくべき看護技術、バイタルサイン、コミュニケーション 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 歯科衛生士が知っておくべき看護の知識・技術、高次脳機能障害 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 歯科衛生士が知っておくべき看護の知識・技術、高次脳機能障害 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 歯科衛生士が知っておくべき看護の知識・技術、摂食・栄養 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 歯科衛生士が知っておくべき看護の知識・技術、口腔ケア 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 歯科衛生士が知っておくべき看護の知識・技術、嚥下障害 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 歯科衛生士が知っておくべき看護の知識・技術、糖尿病 歯科衛生士が知っておくべき看護の知識・技術、与薬 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	高松 尚史	備考
歯科臨床概論	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 木曜日	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 歯科医学や臨床の概要を理解する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科衛生士のための歯科臨床概論(第2版)				【実務経験等】 歯科医師として1989年より歯科診療に従事後歯科医院継承開業。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(歯科医療・臨床の理解)習得への講義を行う。		
回	授業概要				授業概要	
1	【授業単元】 I編 歯科診療と歯科診療所 1章 歯科診療とは～3章 歯科診療所における業務 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 II編 歯科診療の流れ 1章 ライフステージと歯科診療～2章 歯科診療で行うこと -主な診療の流れ- 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 2章 1 診査・検査・前処置～2 小児歯科 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 3 歯科矯正 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 4 口腔外科 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 5 歯科保存 6 歯周治療 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 小試験 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 7 歯科補綴 8 障害者歯科・高齢者歯科 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	橋本 大悟	備考
保存修復学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 木 曜 日 4 限目	備考 単元理解確認小テストの実施あり
【授業の到達目標】						
歯の硬組織疾患を抑制し、修復することについての科学的知識と技術体系を理解する。						
【使用教科書・教材・参考書】				【実務経験等】		
最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法				歯科医師として2010年より歯科医院にて診療業務に従事 その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(歯の保存修復に関する知識・技術)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 I 編 総論 1章歯の保存療法の種類 【到達目標】 ①～④			9	【授業単元】 3章間接法修復 ①インレー及びアンレー修復 【到達目標】 ①～⑥	
2	【授業単元】 2章口腔検査 (歯および歯周組織) 【到達目標】 ①～⑥			10	【授業単元】 3章間接法修復 ②ベニア修復 ③合着剤及び接着剤 【到達目標】 ⑤～⑨	
3	【授業単元】 2編 保存修復 1章保存修復の概要 ①保存修復学とは 【到達目標】 ①～④			11	【授業単元】 4章保存修復における歯科衛生士の役割 ①検査・診断時の業務 【到達目標】 ①～⑫	
4	【授業単元】 1章保存修復の概要 ②窩洞と保存h修復治療 ③保存修復治療の概要 ④保存修復治療の準備 【到達目標】 ①～④			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 1章保存修復の概要 ⑤歯の切削 ⑥歯髄の保護 ⑦保存修復法の種類 【到達目標】 ①～④			13	【授業単元】 総合復習のための実習(1) 保存修復処置の基礎実習 【到達目標】 処置の実際を観察し手順および使用器材の用い方を理解すると共に歯科衛生士業務について考察する	
6	【授業単元】 2章直接法修復 ①コンポジットレジン修復 【到達目標】 ①～⑤			14	【授業単元】 総合復習のための実習(2) 保存修復処置の基礎実習 【到達目標】 処置の実際を観察し手順および使用器材の用い方を理解すると共に歯科衛生士業務について考察する	
7	【授業単元】 2章直接法修復 ①コンポジットレジン修復 ②セメント修復 【到達目標】 ①～⑧			15	【授業単元】 総合復習(試験対策) 【到達目標】	
8	【授業単元】 3章間接法修復 ①インレー及びアンレー修復 【到達目標】 ①～⑥			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	三隅 一公	備考
歯内療法学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 水曜日	1限目 9:00~10:30
【授業の到達目標】 歯の硬組織疾患から継発して起こる歯髄および根尖性歯周疾患を対象として、その治療法および予防法について理解する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法				【実務経験等】 歯科医師として2004年より歯科医院にて診療業務に従事 その知識と経験を活かし、当授業の到達目標(歯髄および根尖性 歯周疾患を対象の治療法および予防法の理解)習得への講義を 行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 III編 歯内療法 1章 歯内療法学の概要 【到達目標】 ①~⑬			9	【授業単元】 5章 外科的歯内療法 【到達目標】 ①~③	
2	【授業単元】 III編 歯内療法 1章 歯内療法学の概要 【到達目標】 ①~⑬			10	【授業単元】 6章 歯の外傷 7章 歯内療法における安全対策 【到達目標】 ①~⑤	
3	【授業単元】 2章 歯髄保存療法 【到達目標】 ①~④			11	【授業単元】 8章 歯内療法における歯科衛生士の役割 【到達目標】 ①~③	
4	【授業単元】 2章 歯髄保存療法 【到達目標】 ①~④			12	【授業単元】 8章 歯内療法における歯科衛生士の役割 【到達目標】 ①~③	
5	【授業単元】 3章 歯髄の除去療法① 【到達目標】 ①~⑤			13	【授業単元】 ホワイトニング 【到達目標】	
6	【授業単元】 3章 歯髄の除去療法① 【到達目標】 ①~⑤			14	【授業単元】 実習 マイクロスコープ 【到達目標】	
7	【授業単元】 4章 根管治療・根管充填 【到達目標】 ①~⑬			15	【授業単元】 復習・国試対策 【到達目標】	
8	【授業単元】 4章 根管治療・根管充填 【到達目標】 ①~⑬			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	東 克章	備考
歯周治療学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前 期 木 曜 日 4 限目	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 歯周病の原因や進行のメカニズムを理解し、予防と治療法を学ぶ。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯周疾患 歯周治療(8刷) 歯科衛生士臨床のすべてベーシックパート(エルバ)				【実務経験等】 歯科医師として1978年より大学等勤務後1986年に歯科医院開設。長年にわたり診療教務に従事、その豊富な知識・経験を活かし当授業の到達目標(歯周病の理解と治療法)習得への講義を行う。		
回	授業概要			授業概要		
1	【授業単元】 I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯周治療とは 2章 正常な歯周組織の構造と機能 【到達目標】 1章①~④ 2章①~⑥			9	【授業単元】 3章 歯周基本治療 【到達目標】 ①~④	
2	【授業単元】 2章 正常な歯周組織の構造と機能 【到達目標】 ①~⑥			10	【授業単元】 4章 歯周外科治療 【到達目標】 ①~④	
3	【授業単元】 3章 歯周病の分類と原因 【到達目標】 ①~⑥			11	【授業単元】 4章 歯周外科治療 【到達目標】 ①~④	
4	【授業単元】 3章 歯周病の分類と原因 【到達目標】 ①~⑥			12	【授業単元】 歯周外科治療(2) 【到達目標】	
5	【授業単元】 II 編 歯周治療の実際 1章 歯周治療の進め方 【到達目標】 ①~⑧			13	【授業単元】 5章 歯周治療としての口腔機能回復治療 【到達目標】	
6	【授業単元】 2章 歯周病の検査 【到達目標】 ①~④			14	【授業単元】 6章 メンテナンス 【到達目標】	
7	【授業単元】 2章 歯周病の検査 【到達目標】 ①~④			15	【授業単元】 歯周治療における歯科衛生士の役割 【到達目標】	
8	【授業単元】 3章 歯周基本治療 【到達目標】 ①~④			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	浦 健司	備考 講義回数延長あり
生物学	基礎	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前 期 月 曜日 2 限目	
【授業の到達目標】 生命とは何か、地球上に生命はどのようにして誕生したか、生命をつくる細胞の成り立ちと働き、生命が連続するしくみ、そして生命が環境の変化にあわせて生活するしくみの学習を通して人の生物としての特徴の理解を深める。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 生物学				【実務経験等】 なし		
回	授業概要			としての	授業概要	
1	【授業単元】 I編 生命 3章 生命の変遷 II編 組織と細胞 1章 生物は細胞からできている 【到達目標】 ①～② (p9) ①～⑬(p16)			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 2章 細胞の一生と固体の成り立ち 【到達目標】 ①～⑤ (p36)			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 2章 細胞の一生と固体の成り立ち 3. ヒトの組織 4. ヒトの器官			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 III編 生命の連続 2章 遺伝と遺伝子 【到達目標】 ①～⑦ (p55)			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 IV編 環境と動物の反応 1章 刺激の受容と反応 【到達目標】 ①～⑤ (p74)			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 IV編 環境と動物の反応 2. 神経系による刺激の伝達			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 IV編 環境と動物の反応 3. 中枢神経と末梢神経 自律神経			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 IV編 環境と動物の反応 2章 内部環境を保つ仕組み 【到達目標】 ①～⑫ (p84) 4. 生体防御			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	山内 由宣	備考
矯正歯科学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 月 曜日 3 限目	3限目 13:00~14:30
【授業の到達目標】 ・不正咬合の障害や原因を理解できること ・頭蓋・顎・顎面部の成長・発育を理解できること ・不正咬合の分類とその治療法について理解できること ・矯正臨床における歯科衛生士の役割について理解できること						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正				【実務経験等】 歯科医師として2009年より大学病院・民間病院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(矯正臨床での歯科衛生士の役割の理解)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識 1章 矯正歯科治療の概要 【到達目標】 ①~⑤			9	【授業単元】 4章 矯正歯科診断 MFT 【到達目標】 ①~⑤	
2	【授業単元】 2章 成長・発育概論 【到達目標】 ①~⑨			10	【授業単元】 5章 矯正歯科治療と”力” ①歯の移動と固定~④強制力と顎整形力 【到達目標】 ①~⑨	
3	【授業単元】 2章 成長・発育概論 顔面頭蓋の成長・発育、歯列の成長発育 【到達目標】 ①~⑨			11	【授業単元】 5章 矯正歯科治療と”力” ⑤保定 【到達目標】 ①~⑨	
4	【授業単元】 2章 成長・発育概論 口腔機能の発達、口腔筋機能療法 【到達目標】 ①~⑨			12	【授業単元】 6章 矯正装置 【到達目標】 ①~④	
5	【授業単元】 3章 正常咬合と不正咬合 ①正常咬合と下顎運動 【到達目標】 ①~⑥			13	【授業単元】 II 編 矯正歯科治療の実際 1章上下顎前後の関係の不調和~3章成人矯正 【到達目標】 各章GIO	
6	【授業単元】 3章 正常咬合と不正咬合 ②不正咬合(咬合異常) 【到達目標】 ①~⑥			14	【授業単元】 II 編 矯正歯科治療の実際 4章口腔顎顔面の形成異常と変形~7章健康保険が適用される矯正歯科治療 【到達目標】 各章GIO	
7	【授業単元】 3章 正常咬合と不正咬合 ③不正咬合の分類 【到達目標】 ①~⑥			15	【授業単元】 III 編 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 1章~4章 【到達目標】 各章GIO	
8	【授業単元】 3章 正常咬合と不正咬合 ④不正咬合の原因と予防~⑤不正咬合の予防 【到達目標】 ①~⑥			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	中村 響	備考
歯科放射線学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 木曜日 1限目	1限目 9:00~10:30
【授業の到達目標】 一般歯科で取り扱われる放射線に関する基礎知識とその取り扱い、また、歯科衛生士としてX線検査から得られる情報の必要性について理解する。						
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士テキスト(学建書院) わかりやすい歯科放射線学(第3版)				【実務経験等】 歯科医師として大学病院にて歯科診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(歯科診療での放射線に関する知識)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 1. 放射線とエックス線 2. 放射線の影響 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 3. 歯科用エックス線撮影装置 4. エックス線画像の形成 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 5. 撮影法(行内法) 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 6. 撮影法(口外法) 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 8. デジタルエックス線システム 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 9. 正常なエックス線画像 10. 病変の画像例 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 6. 口内法実習(A班) 7. フィルム処理 ※画像読影(B班) 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 6. 口内法実習(B班) 7. フィルム処理 ※画像読影(A班) 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	竹部 史朗 田上 実	備考
口腔外科学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 金曜日 3限目	・救急蘇生法実習 資格修得あり
【授業の到達目標】 顎・口腔粘膜疾患について学び、口腔外科や歯科麻酔に関する診療補助業務のほか周術期の患者管理法、口腔がんを早期発見するための口腔観察力を備えると共に、患者に対する心理的な面の支援方法を学ぶ。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 口腔外科学・歯科麻酔学				【実務経験等】 民間医院にて診療業務に従事する歯科医師、及び長年消防本部に勤務実績のある元消防士により、その知識・経験等を活かし、当授業到達目標(顎・口腔粘膜疾患に関する知識等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科 1章 口腔外科の概要 【到達目標】 ①～⑥ (p2)			9	【授業単元】Ⅱ編 歯科治療と歯科麻酔 1章 歯科治療における歯科麻酔と患者管理 【到達目標】 ①～③ (p174) 2章 局所麻酔 【到達目標】 ①～⑤ (p185)	
2	【授業単元】 2章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 【到達目標】 ①～⑥ (p19) 3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害 【到達目標】 ①～③ (p34)			10	【授業単元】 3章 精神鎮静法 【到達目標】 ①～③ (p194) 4章 全身麻酔 【到達目標】 ①～③ (p200) 194	
3	【授業単元】 4章 口腔粘膜の病変 【到達目標】 ①～⑥ (p50)			11	【授業単元】Ⅲ編 口腔外科・歯科麻酔の臨床における 歯科衛生士のかかわり 【到達目標】 口腔外科における歯科衛生士の診療補助業務を説明 できる	
4	【授業単元】 5章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 【到達目標】 ①～③ (p80) 6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 【到達目標】 ①～⑤ (p89)			12	2編 歯科治療と歯科麻酔 【授業単元】 5章 救急蘇生法 【到達目標】 ①～③ (p206) 赤十字救急法講習 (基礎講義・実技)資格取得 1日講習	
5	【授業単元】 6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 【到達目標】 ①～⑤ (p89) 7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 【到達目標】 ①～⑤ (p98)			13	2編 歯科治療と歯科麻酔 5章 救急蘇生法 赤十字救急法講習 (基礎講義・実技)資格取得 1日講習	
6	【授業単元】 8章 唾液腺疾患 【到達目標】 ①～⑦ (p112) 9章 口腔領域の神経疾患 【到達目標】 ①～⑤ (p122)			14	2編 歯科治療と歯科麻酔 5章 救急蘇生法 赤十字救急法講習 (基礎講義・実技)資格取得 1日講習	
7	【授業単元】 10章 口腔外科診療の実際 【到達目標】 ①～⑦ (p130)			15*	2編 歯科治療と歯科麻酔 5章 救急蘇生法 赤十字救急法講習 (基礎講義・実技)資格取得 1日講習	
8	【授業単元】 10章 口腔外科診療の実際 【到達目標】 ①～⑦ (p130)			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	伊東 泰蔵	備考
小児歯科学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 金 曜 日 1 限目	
【授業の到達目標】 小児の特性と歯科における診療および補助について理解する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 小児歯科				【実務経験等】 歯科医師として1973年より大学病院、歯科医院にて診療業務に従事後、1998年より歯科医院経営。その長年の知識・経験等を活かし当授業の到達目標(小児の特性と歯科診療および補助の理解)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 I 編 小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 2章 心身の発育 【到達目標】 1章①～③ 2章①～⑦			9	【授業単元】 3章 小児歯科における診療体系 【到達目標】 ①～⑥	
2	【授業単元】 3章小児と生理的特徴 4章顔面発育の発育 5章歯の発育とその異常 【到達目標】 各章GIO参照			10	【授業単元】 4章 障害児の歯科治療 【到達目標】 ①～⑤	
3	【授業単元】 3章小児と生理的特徴 4章顔面発育の発育 5章歯の発育とその異常 【到達目標】 各章GIO参照			11	【授業単元】 III 編 小児歯科の診療における歯科衛生士の役割 1章 診察・検査時の業務 2章 う蝕予防 【到達目標】 1章①～③ 2章①～⑥	
4	【授業単元】 6章 歯列・咬合の発育と異常 【到達目標】 ①～⑤			12	【授業単元】 3章 小児歯科診療における診療補助 【到達目標】 ①～③	
5	【授業単元】 7章 小児の歯科疾患 【到達目標】 ①～③			13	【授業単元】 3章 小児歯科診療における診療補助 【到達目標】 ①～③	
6	【授業単元】 II 編 小児歯科診療 1章 小児期の特徴と歯科的問題点 2章 小児歯科における診療体系 【到達目標】 1章① 2章①～⑤			14	【授業単元】 4章 小児の口腔保健管理 【到達目標】 ①～④	
7	【授業単元】 II 編 小児歯科診療 1章 小児期の特徴と歯科的問題点 2章 小児歯科における診療体系 【到達目標】 1章① 2章①～⑤			15	【授業単元】 まとめ・試験対策 【到達目標】	
8	【授業単元】 3章 小児歯科における診療体系 【到達目標】 ①～⑥			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	匠原 健	備考
障がい者歯科論	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	20時間 [1]	開講区分	前期 月曜日 4限目	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 歯科診療上問題となる障害の病態と対応法について理解し、国家試験および診療現場に活用できる基礎的知識を獲得する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬) 障害者歯科(2版)				【実務経験等】 歯科医師として2011民間医院開始後2019に開院。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(障がい者歯科診療の知識と衛生士の役割)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 1章障がいの概念 【到達目標】 ①~⑤			9	【授業単元】 7章 地位における障害者歯科 【到達目標】 ①~③	
2	【授業単元】 2章歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①精神発達・心理的発達と行動障害~ ②運動障害(神経・筋系疾患) 【到達目標】 ①~⑤			10	【授業単元】 8章 障害者歯科における歯科衛生過程 【到達目標】 症例に対する歯科衛生過程演習ができる	
3	【授業単元】 2章歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ③感覚障害~ ⑥その他 障害のある人への虐待 【到達目標】 ①~⑤			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 3章 障害者の歯科医療と行動調整 ①コミュニケーションの方法~ 【到達目標】 ①~②			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 4章 健康支援と口腔衛生管理 【到達目標】 ①~③			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 4章 健康支援と口腔衛生管理 5章 リスク評価と安全管理 【到達目標】 4章①~③ 5章①~⑤			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 6章 接触嚙下リハビリテーションと歯科衛生士御役割 【到達目標】 ①~⑦			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 6章 接触嚙下リハビリテーションと歯科衛生士御役割 【到達目標】 ①~⑦			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	園田 隆紹	備考
高齢者歯科学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 水曜日	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 高齢者の身体的・精神的特徴を理解し、全身疾患を抱えた対象者が歯科医療にかかわるとき、歯科衛生士として必要な知識と技術を習得する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 高齢者歯科(2版-1刷) 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版				【実務経験等】 歯科医師として2001年より大学病院・民間医院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(高齢者歯科診療の知識と技術)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 序章 高齢者歯科と歯科衛生士の役割 【到達目標】 ①~③			9	【授業単元】 3章要介護高齢者への口腔のケア 【到達目標】 ①~④	
2	【授業単元】 I編 高齢者をとりまく社会と環境 1章高齢者と健康 2章高齢者にかかわる法制度 【到達目標】 1章①~⑤ 2章①~②			10	【授業単元】 V編 摂食嚥下リハビリテーション 1章高齢者のリハビリテーションの概要 2章摂食嚥下の評価と対応 【到達目標】 1章①~④ 2章①~③	
3	【授業単元】 3章高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴 II編加齢による身体的・精神的变化と疾患 1章加齢に伴う身体的機能の変化 【到達目標】 3章①~⑤ 1章①②			11	【授業単元】 2章摂食嚥下の評価と対応 【到達目標】 2章①~③	
4	【授業単元】 2章高齢者の精神・心理的变化 3章高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 【到達目標】 2章①~③ 3章①~④			12	【授業単元】 3章誤嚥性肺炎の予防のための訓練 【到達目標】 ①~③	
5	【授業単元】 3章高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 【到達目標】 3章①~④			13	【授業単元】 VI編 高齢者に関わる医療と介護 2章歯科衛生士に関わる公的介護保険の概要 【到達目標】 ①②	
6	【授業単元】 III編 高齢者の状態の把握 1章高齢者の生活機能の評価 2章高齢者歯科と臨床検査 【到達目標】 1章①② 2章①~⑪			14	【授業単元】 まとめ① 【到達目標】	
7	【授業単元】 3章高齢者の栄養状態 【到達目標】 ①~③			15	【授業単元】 まとめ② VE実習 【到達目標】	
8	【授業単元】 4章高齢者の薬剤服用 IV編 口腔のケア 1章高齢者に対する口腔のケア 2章有病高齢者への口腔のケア 【到達目標】 各章①~③			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	3年	担当教員	専任教員	備考
歯科予防処置論Ⅲ	歯科予防処置論	履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】 口腔保健管理に関する総合的な知識の定着と、う蝕、歯周病予防を実践するための技術を身につける。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論(2版) 保健生態学 歯周疾患 歯周治療(8刷)				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員3名により、当授業の到達目標(歯周病予防実践技術)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	専任教員	備考
歯科保健指導論Ⅰ	歯科保健指導論	履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員3名により、当授業の到達目標(歯科保健指導を行うために必要な知識等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

回	授業概要	回	授業概要
16	【授業単元】 【到達目標】	26	【授業単元】 【到達目標】
17	【授業単元】 【到達目標】	27	【授業単元】 【到達目標】
18	【授業単元】 【到達目標】	28	【授業単元】 【到達目標】
19	【授業単元】 【到達目標】	29	【授業単元】 【到達目標】
20	【授業単元】 【到達目標】	30	【授業単元】 【到達目標】
21	【授業単元】 【到達目標】	31	【授業単元】 【到達目標】
22	【授業単元】 【到達目標】	32	【授業単元】 【到達目標】
23	【授業単元】 【到達目標】	33	【授業単元】 【到達目標】
24	【授業単元】 【到達目標】	34	【授業単元】 【到達目標】
25	【授業単元】 【到達目標】	35	【授業単元】 【到達目標】

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	専任教員	備考
歯科保健指導論Ⅱ	歯科保健指導論	履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員3名により、当授業の到達目標(歯科保健指導を行うために必要な知識等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

回	授業概要	回	授業概要
16	【授業単元】 【到達目標】	26	【授業単元】 【到達目標】
17	【授業単元】 【到達目標】	27	【授業単元】 【到達目標】
18	【授業単元】 【到達目標】	28	【授業単元】 【到達目標】
19	【授業単元】 【到達目標】	29	【授業単元】 【到達目標】
20	【授業単元】 【到達目標】	30	【授業単元】 【到達目標】
21	【授業単元】 【到達目標】	31	【授業単元】 【到達目標】
22	【授業単元】 【到達目標】	32	【授業単元】 【到達目標】
23	【授業単元】 【到達目標】	33	【授業単元】 【到達目標】
24	【授業単元】 【到達目標】	34	【授業単元】 【到達目標】
25	【授業単元】 【到達目標】	35	【授業単元】 【到達目標】

科目名	専門	履修学年	3年	担当教員	専任教員	備考
歯科保健指導論Ⅲ	歯科保健指導論	履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員3名により、当授業の到達目標(歯科保健指導を行うために必要な知識等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

回	授業概要	回	授業概要
16	【授業単元】 【到達目標】	26	【授業単元】 【到達目標】
17	【授業単元】 【到達目標】	27	【授業単元】 【到達目標】
18	【授業単元】 【到達目標】	28	【授業単元】 【到達目標】
19	【授業単元】 【到達目標】	29	【授業単元】 【到達目標】
20	【授業単元】 【到達目標】	30	【授業単元】 【到達目標】
21	【授業単元】 【到達目標】	31	【授業単元】 【到達目標】
22	【授業単元】 【到達目標】	32	【授業単元】 【到達目標】
23	【授業単元】 【到達目標】	33	【授業単元】 【到達目標】
24	【授業単元】 【到達目標】	34	【授業単元】 【到達目標】
25	【授業単元】 【到達目標】	35	【授業単元】 【到達目標】

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	佐藤 悦子	備考
栄養指導Ⅰ	歯科保健指導論	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 水 曜 日 3 限目	3限目 13:00~14:30
【授業の到達目標】 食生活の現状を正確に認識し、問題点や注意点を考察する力をつける。また臨床における栄養指導の必要性を十分に理解した上で、患者の生活環境に適した指導を行う技術を習得する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬) 歯科予防処置論・歯科保健指導論 栄養と代謝				【実務経験等】 管理栄養士として1974年より保健所・公立病院にて長年にわたり管理栄養業務に従事、又2012年より大学教員として従事、その長年にわたる知識・経験等を活かし当授業の到達目標(臨床での栄養指導技術力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 栄養の基礎知識、チーム医療の重要性 【到達目標】			9	【授業単元】 エネルギー代謝 【到達目標】	
2	【授業単元】 5大栄養素、食事バランス、食品成分、栄養計算、水、食物繊維、エネルギー比率 【到達目標】			10	【授業単元】 ビタミン 【到達目標】	
3	【授業単元】 糖質、人口甘味料 【到達目標】			11	【授業単元】 ビタミン 【到達目標】	
4	【授業単元】 資質、脂肪酸の種類 【到達目標】			12	【授業単元】 ミネラル 【到達目標】	
5	【授業単元】 たんぱく質、必須アミノ酸・非必須アミノ酸 【到達目標】			13	【授業単元】 ミネラル 【到達目標】	
6	【授業単元】 栄養素の消化吸収 【到達目標】			14	【授業単元】 食事摂取基準 【到達目標】	
7	【授業単元】 栄養素の消化吸収 【到達目標】			15	【授業単元】 まとめ 【到達目標】	
8	【授業単元】 生体の構成要素、細胞の役割 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	佐藤 悦子	備考
栄養指導Ⅱ	歯科保健指導論	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前期 木曜日	2限目 3限目 13:00~14:30
【授業の到達目標】 食生活の現状を正確に認識し、問題点や注意点を考察する力をつける。また臨床における栄養指導の必要性を十分に理解した上で、患者の生活環境に適した指導を行う技術を習得する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬) 歯科予防処置論・歯科保健指導論 栄養と代謝				【実務経験等】 管理栄養士として1974年より保健所・公立病院にて長年にわたり管理栄養業務に従事、又2012年より大学教員として従事、その長年にわたる知識・経験等を活かし当授業の到達目標(臨床での栄養指導技術力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 基礎代謝 【到達目標】			9	【授業単元】 高血圧、心疾患 【到達目標】	
2	【授業単元】 健康増進法、食育基本法、保健機能食品 【到達目標】			10	【授業単元】 糖尿病 【到達目標】	
3	【授業単元】 国民の健康と栄養の現状 【到達目標】			11	【授業単元】 腎臓病 【到達目標】	
4	【授業単元】 ライフステージ別栄養 乳幼児 【到達目標】			12	【授業単元】 肝臓病 【到達目標】	
5	【授業単元】 妊産婦 【到達目標】			13	【授業単元】 消化器疾患 【到達目標】	
6	【授業単元】 学童、思春期、アナロキシア 【到達目標】			14	【授業単元】 内分泌疾患 【到達目標】	
7	【授業単元】 成人、老年期 【到達目標】			15	【授業単元】 貧血 【到達目標】	
8	【授業単元】 肥満、脂質異常症、高尿酸血症 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	専任教員	備考
歯科診療補助論Ⅰ	歯科診療補助論	履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員4名により、当授業の到達目標(歯科衛生士が行う歯科診療補助の知識・技能等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

回	授業概要	回	授業概要
16	【授業単元】 【到達目標】	26	【授業単元】 【到達目標】
17	【授業単元】 【到達目標】	27	【授業単元】 【到達目標】
18	【授業単元】 【到達目標】	28	【授業単元】 【到達目標】
19	【授業単元】 【到達目標】	29	【授業単元】 【到達目標】
20	【授業単元】 【到達目標】	30	【授業単元】 【到達目標】
21	【授業単元】 【到達目標】	31	【授業単元】 【到達目標】
22	【授業単元】 【到達目標】	32	【授業単元】 【到達目標】
23	【授業単元】 【到達目標】	33	【授業単元】 【到達目標】
24	【授業単元】 【到達目標】	34	【授業単元】 【到達目標】
25	【授業単元】 【到達目標】	35	【授業単元】 【到達目標】

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	専任教員	備考
歯科診療補助論Ⅱ	歯科診療補助論	履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員4名により、当授業の到達目標(歯科衛生士が行う歯科診療補助の知識・技能等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業单元】 【到達目標】			9	【授業单元】 【到達目標】	
2	【授業单元】 【到達目標】			10	【授業单元】 【到達目標】	
3	【授業单元】 【到達目標】			11	【授業单元】 【到達目標】	
4	【授業单元】 【到達目標】			12	【授業单元】 【到達目標】	
5	【授業单元】 【到達目標】			13	【授業单元】 【到達目標】	
6	【授業单元】 【到達目標】			14	【授業单元】 【到達目標】	
7	【授業单元】 【到達目標】			15	【授業单元】 【到達目標】	
8	【授業单元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

回	授業概要	回	授業概要
16	【授業単元】 【到達目標】	26	【授業単元】 【到達目標】
17	【授業単元】 【到達目標】	27	【授業単元】 【到達目標】
18	【授業単元】 【到達目標】	28	【授業単元】 【到達目標】
19	【授業単元】 【到達目標】	29	【授業単元】 【到達目標】
20	【授業単元】 【到達目標】	30	【授業単元】 【到達目標】
21	【授業単元】 【到達目標】	31	【授業単元】 【到達目標】
22	【授業単元】 【到達目標】	32	【授業単元】 【到達目標】
23	【授業単元】 【到達目標】	33	【授業単元】 【到達目標】
24	【授業単元】 【到達目標】	34	【授業単元】 【到達目標】
25	【授業単元】 【到達目標】	35	【授業単元】 【到達目標】

科目名	専門	履修学年	3年	担当教員	専任教員	備考
歯科診療補助論Ⅲ	歯科診療補助論	履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員4名により、当授業の到達目標(歯科衛生士が行う歯科診療補助の知識・技能等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 【到達目標】			9	【授業単元】 【到達目標】	
2	【授業単元】 【到達目標】			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 【到達目標】			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 【到達目標】			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 【到達目標】			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 【到達目標】			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 【到達目標】			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

回	授業概要	回	授業概要
16	【授業単元】 【到達目標】	26	【授業単元】 【到達目標】
17	【授業単元】 【到達目標】	27	【授業単元】 【到達目標】
18	【授業単元】 【到達目標】	28	【授業単元】 【到達目標】
19	【授業単元】 【到達目標】	29	【授業単元】 【到達目標】
20	【授業単元】 【到達目標】	30	【授業単元】 【到達目標】
21	【授業単元】 【到達目標】	31	【授業単元】 【到達目標】
22	【授業単元】 【到達目標】	32	【授業単元】 【到達目標】
23	【授業単元】 【到達目標】	33	【授業単元】 【到達目標】
24	【授業単元】 【到達目標】	34	【授業単元】 【到達目標】
25	【授業単元】 【到達目標】	35	【授業単元】 【到達目標】

科目名	専門	履修学年	2年	担当教員	杉内 博幸	備考
臨床検査法	歯科診療補助論	履修時間 (単位)	15時間 [1]	開講区分	前期 水曜日	2限目 10:40~12:10
【授業の到達目標】 歯科衛生士として、ヒトの病態を臨床検査というエビデンスをもって知ることができるよう、臨床検査の基本的知識と病気をもつ患者に対応するうえで必要な最低限の態度と技能を修得する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 臨床検査				【実務経験等】 長年、大学病院にて又大学教員としての豊富な勤務実績あり。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(臨床検査の基本的知識等)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 1章臨床検査とは ①臨床検査の倫理と安全～ ④検査成績の読み方 【到達目標】 ①～④			9	C	
2	【授業単元】 2章生体検査(生理機能検査) ①体温検査～ ⑧血中酸素濃度検査 【到達目標】 ①～⑫			10	【授業単元】 【到達目標】	
3	【授業単元】 3章検体検査 ①血液を用いる検査～ ③病理検査 【到達目標】 ①～⑮			11	【授業単元】 【到達目標】	
4	【授業単元】 3章検体検査 ①血液を用いる検査～ ③病理検査 【到達目標】 ①～⑮			12	【授業単元】 【到達目標】	
5	【授業単元】 3章検体検査 ①血液を用いる検査～ ③病理検査 【到達目標】 ①～⑮			13	【授業単元】 【到達目標】	
6	【授業単元】 4章口腔領域の臨床検査 ①口臭検査～ ⑨根管細菌培養検査 【到達目標】 ①～⑩			14	【授業単元】 【到達目標】	
7	【授業単元】 5章摂食嚥下関連の検査 ①摂食嚥下障害のスクリーニングテスト～ ②摂食嚥下障害の検査法 【到達目標】 ①～⑧			15	【授業単元】 【到達目標】	
8	【授業単元】 付章主な疾患・病態別検査値の捉え方 —こんな患者が来院したら— 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	選択必修	履修学年	2年	担当教員	上田 幸子	備考
歯科医療事務	歯科診療補助論	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	前 期 月 曜日 2 限目	
【授業の到達目標】 社会保険制度、医療保険制度の基礎知識を身につけて、医療機関における窓口業務のサポート、医療業務の補助ができるようになる。						
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士のための歯科診療報酬入門 歯科衛生士のための衛生行政・社会保険 (医歯薬出版)				【実務経験等】 歯科衛生士として1973年より歯科医院にて長年診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(医療業務補助能力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 医療保険制度 ① 【到達目標】			9	【授業単元】 根尖性歯周炎 レセプト書き練習 【到達目標】	
2	【授業単元】 医療保険制度 ② 【到達目標】			10	【授業単元】 歯周疾患 レセプト書き練習 【到達目標】	
3	【授業単元】 窓口事務 請求事務 歯の知識 初診料 再診料 【到達目標】			11	【授業単元】 レセプト書き練習 【到達目標】	
4	【授業単元】 医学管理 在宅 投薬 【到達目標】			12	【授業単元】 欠損補綴 (ブリッジ、有床義歯) 【到達目標】	
5	【授業単元】 注射 検査 画像 リハビリ 【到達目標】			13	【授業単元】 レセプト書き練習 【到達目標】	
6	【授業単元】 処置 手術 麻酔 【到達目標】			14	【授業単元】 修理 再装 未来院請求 【到達目標】	
7	【授業単元】 歯冠修復 【到達目標】			15	【授業単元】 総まとめ 【到達目標】	
8	【授業単元】 傷病による治療と算定 硬組織疾患 歯髄炎 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	選択必修	履修学年	2年	担当教員	中山節子	備考
歯科医療マネジメント		履修時間 (単位)	30時間 [1]	開講区分	後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】 歯科医院を一企業という意識を持ち、①患者満足②自己啓発③経営感覚という3つの意識バランスをもって医院の発展・成長に貢献できる能力を培うために必要な見識を学ぶ。						
【使用教科書・教材・参考書】 各回配布資料				【実務経験等】 歯科衛生士として1975年より歯科医院にて長年歯診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(歯科医療マネジメント能力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			授業概要		
1	【授業単元】 1. 職業人としての自立と自律 2. 前向きに取り組むマインド 【到達目標】			9	【授業単元】 プロフェッショナル 1. 生涯学習 【到達目標】	
2	【授業単元】 1. 仕事への責任を果たすマインド 2. 報告・連絡・相談・確認の徹底 【到達目標】			10	【授業単元】 プロフェッショナル 1. 組織とマネージメント 2. 学校と職場の違いとは 【到達目標】	
3	【授業単元】 1. 医療現場におけるコミュニケーション(患者理解) 2. コミュニケーション能力 【到達目標】			11	【授業単元】 1. 「経営感覚を持とう」 ①自己能力を客観的に評価する ②経営と歯科衛生士 【到達目標】	
4	【授業単元】 1. 私の人生(キャリアアップ) 2. 理想の人生設計 【到達目標】			12	【授業単元】 プロフェッショナル 1. 臨床の場で歯科衛生士に求められているもの 2. 納得できる仕事をする 【到達目標】	
5	【授業単元】 プロフェッショナル 1. 魅力ある歯科衛生士 2. 魅力ある歯科医師 【到達目標】			13	【授業単元】 パートナーとして、求めること、求められること 歯科衛生士&歯科医師 【到達目標】	
6	【授業単元】 ヒトとして学ぶこと 【到達目標】			14	【授業単元】 プロフェッショナル 1. 臨床の場で歯科衛生士に求められているもの 2. 納得できる仕事をするために 【到達目標】	
7	【授業単元】 プロフェッショナル 1. 歯科衛生士の魅力 【到達目標】			15	【授業単元】 パートナーとして、求めること、求められること 歯科衛生士&歯科医師 【到達目標】	
8	【授業単元】 プロフェッショナル 1. 生涯学習 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	選択必修	履修学年	3年	担当教員	専任教員	備考
卒業研究		履修時間 (単位)	60時間 [2]	開講区分	前後 期 曜日 限目	
【授業の到達目標】 問題発見・問題解決学習として、既成の講義や実習では得られないユニークな経験を自ら学び、日常の問題点を見つけ自分で問題を解決する能力を養う。						
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士教育サブテキスト(クインテッセンス出版) 卒業研究HAND BOOK				【実務経験等】 歯科衛生士として実務経験があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員により、当授業の到達目標(自ら日常の問題点の発見とその解決能力)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 UNIT1 歯科衛生学の卒業研究とは何か 【到達目標】			9	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】	
2	【授業単元】 UNIT2 問題発見 日常の疑問を研究テーマとする 【到達目標】			10	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】	
3	【授業単元】 UNIT3 研究の準備 UNIT4 問題解決の手順 【到達目標】			11	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】	
4	【授業単元】 UNIT6 データの収集 【到達目標】			12	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】	
5	【授業単元】 UNIT7 解決策をみつける手段 【到達目標】			13	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】	
6	【授業単元】 UNIT8 データから図表をつくる 【到達目標】			14	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】	
7	【授業単元】 UNIT9 論文にまとめる 【到達目標】			15	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】	
8	【授業単元】 研究ワーク テーマに沿った論文検索～検証 【到達目標】			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		

科目名	専門	履修学年	1年	担当教員	三村 彰吾	備考
歯科補綴学	臨床歯科医学	履修時間 (単位)	30時間 [2]	開講区分	後 期 火 曜 日 4 限目	4限目 14:40~16:10
【授業の到達目標】 歯科補綴の基礎知識を学び、臨床における補綴治療時の歯科衛生士の役割を理解する。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(第2版)				【実務経験等】 歯科医師として1997年より大学病院・民間病院にて診療業務に従事。その知識・経験等を活かし当授業の到達目標(補綴治療時の歯科衛生士の役割の理解)習得への講義を行う。		
回	授業概要			回	授業概要	
1	【授業単元】 I 編 補綴科治療の基礎 -1章 歯科補綴の概要 ①~④ 【到達目標】 ①~④			9	【授業単元】 3章 有床義歯治療 ①~⑥ 【到達目標】 ①~⑩	
2	【授業単元】 2章 補綴歯科治療の基礎知識 ①~④ 【到達目標】 ①~⑤			10	【授業単元】 4章インプラント治療 【到達目標】 ①~⑤	
3	【授業単元】 II 編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 1章 補綴歯科治療における検査 ①~④ 【到達目標】 ①~④			11	【授業単元】 4章インプラント治療 【到達目標】 ①~⑤	
4	【授業単元】 II 編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 1章 補綴歯科治療における検査 ①~④ 【到達目標】 ①~④			12	【授業単元】 4章インプラント治療 【到達目標】 ①~⑤	
5	【授業単元】 2章 クラウン・ブリッジ治療 ①~③ 【到達目標】 ①~⑤			13	【授業単元】 5章特殊な口腔内装置を用いる治療 ①~⑤ 【到達目標】 ①~⑥	
6	【授業単元】 2章 クラウン・ブリッジ治療 ①~③ 【到達目標】 ①~⑤			14	【授業単元】 6章補綴歯科治療における器材の管理 ①器具器材別滅菌、消毒、洗浄、保管 ②歯科技工士との連携 【到達目標】 ①~③	
7	【授業単元】 3章 有床義歯治療 ①~⑥ 【到達目標】 ①~⑩			15	【授業単元】 試験対策 【到達目標】	
8	【授業単元】 3章 有床義歯治療 ①~⑥ 【到達目標】 ①~⑩			【評価方法】 ①単位取得試験:学則に基づき60点を合格基準とする。 ②出席回数:授業回数2/3以上の出席をもって筆記試験受験可とし、理由不明による欠課については減点する。 ③授業態度:居眠り・私語等、または授業に無関係な行動について自覚を持たず参加する者については筆記試験点数より減点する。		